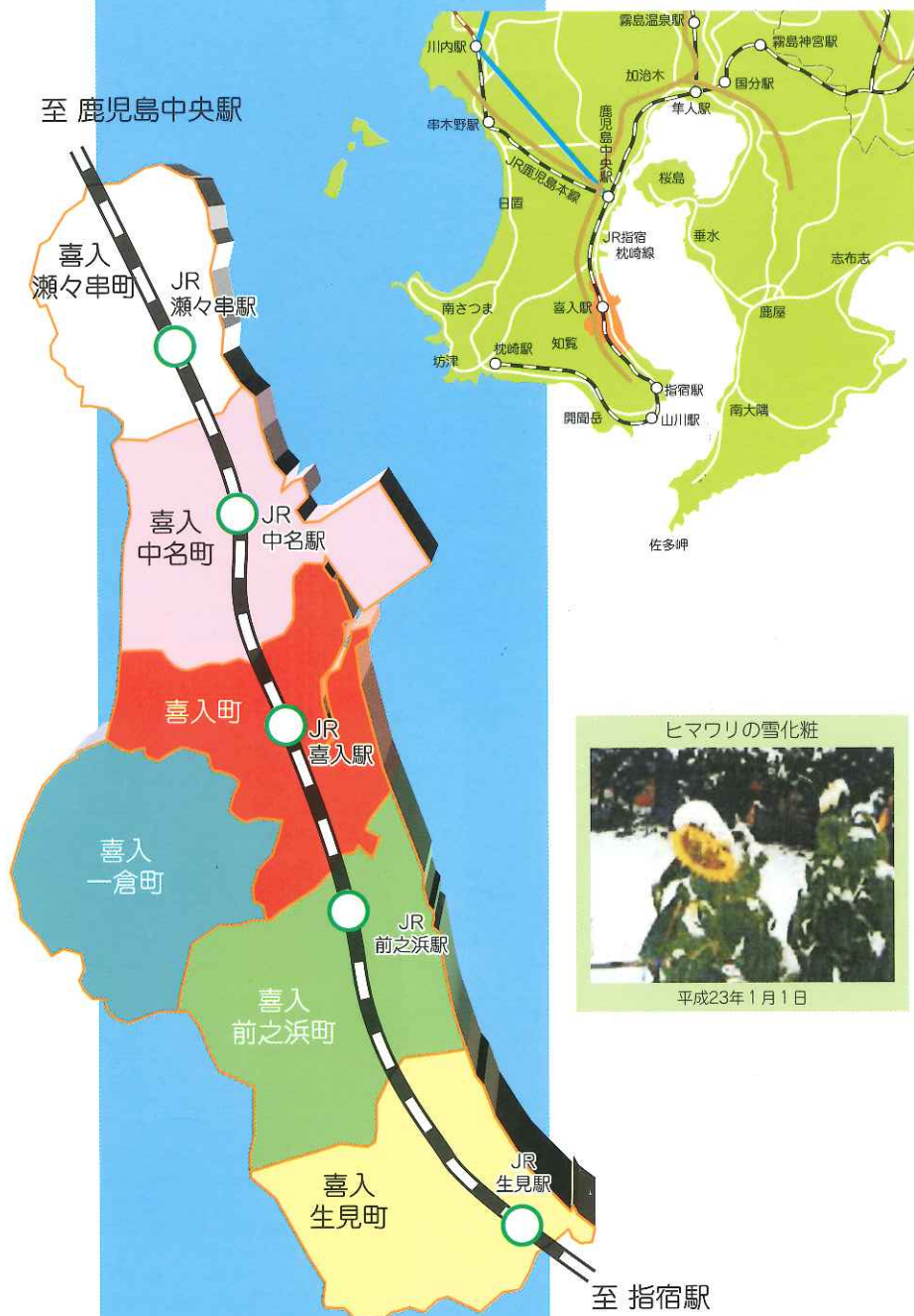


# 喜入地域



発行：喜入地域まちづくりワークショップ  
(平成23年3月)

# 喜び入るまち ガイドマップ



鹿児島市喜入地域

# SESEKUSHI

## 喜入瀬々串町



### ① 瀬々串の力石



いつのころからか時代は不明ですが、重さ約100kgの丸みをおびた石が保存されています。瀬々串の青年たちが力を競い合った石だと伝えられており、近隣青年たちもやってきて力を競い合ったと言われています。青年たちが心身の鍛錬に努めていたことがうかがわれます。

【瀬々串校区上自治公民館】

### ② 湧水井戸



奥行2.3m、横2.9m、深さ1.3mの石積みに水がわき出しています。現在は危険防止のため、全面を金網で張り、取り入れ口を開閉できるようにしてあります。明治6年(1873年)に現在の場所に水源を求めて開設されました。井戸の手前の左側に建立されている水神碑は、その時に建立されたもので、瀬々串校区内に残っている記念碑としては最も古いものです。今は、生活用水としては使われておりません。

【瀬々串校区上集落】

### ③ 蠟箱



瀬々串上集落に昔から伝わるもので、ニオ(青年)寄りのとき、この箱の上にローソクを立てて明かりをとり、いろいろ話し合いや修行をしたものであると言われており、現在は瀬々串上自治公民館に保管されています。たて16cm、横24cm、高さ12cmの箱で、ふたに「文永元年」と記されています。(この文字は読めなくなったため明治37年(1904年)にけずって書きかえられたものです。)

【瀬々串校区上自治公民館】

### ④ 瀬々串浦と番所跡



瀬々串浦とは瀬々串浜のことで、写真で紹介してある「瀬々串浦」は、旧瀬々串街道の門ノ口からで、ここからの眺めは、海を隔てて大隅連山を望み、さらに秀麗桜島を見、錦江湾に浮かぶ小島、舟の往来など風景絶勝と言われていました。

また、ほぼ同じ場所に番所跡があります。ここは喜入から鹿児島に通ずる旧街道筋であったことから番所が置かれ、通行人を取り締まったり、海上を見張る役目をしたりしていました。

【瀬々串校区上集落】

### ⑤ 瀬々串のソバキリ豊祭



瀬々串は平地が少なく傾斜地が多く、昔から田んぼが少なく米がとれなかったことから雑穀のソバなどを栽培していました。ソバのかけ汁は鯖のヒボカシだけで出汁をとり、味噌仕立てにする独特なものです。昔は氏神様の祭(12月10日)にはソバを打って知り合いを招く「ソバキリホゼ」と呼ばれる風習がありました。

【瀬々串校区】

### ⑥ 茂柏山存庭院跡と僧侶墓



文禄4年(1595年)、肝付氏が加治木から移封されたとき喜入へ移し、この地に建てられたもので、真言宗の寺院でしたが、慶応3年(1867年)に廃寺となりました。この時代の僧侶の墓が4基現存しています。

【瀬々串校区下集落】